

## 内科医のための臨床問題集

### 正誤表

このたびは『medicina』61 巻 4 号 (2024 年増刊号)「内科医のための臨床問題集」をご購入いただきまして誠にありがとうございます。

本誌におきまして、以下の誤りがございました。ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

2024 年 4 月 23 日作成 2024 年 5 月 13 日更新

訂正箇所	誤	正	掲載
症例問題 感染症 「Question 20」 p.44	次のうち正しいものを <u>2つ</u> 選べ。	次のうち正しいものを <u>すべて</u> 選べ。	2024/4/23
症例問題 感染症 「Answer 17」 p.50 本文左段・下から 6 行目	カンピロバクター感染性腸炎の 10~30%に、発症から数週間後に Guillain-Barré 症候群を発症することがある。	Guillain-Barré 症候群の 10~30%で、発症の数週間前にカンピロバクター感染性腸炎を発症している。	2024/4/23
症例問題 感染症 「Answer 20」 p.53	正解：A, C	正解：A, C, <u>D</u>	2024/4/23
症例問題 内分泌 「Answer 58」 解説 1) p.140・本文左段・下から 6 行目	(D) 左右の副腎の責任病変を確定するには、最も有用である。 (E) 健常側への集積もあり、責任病変の確定には用いない。	(D) 原発性アルドステロン症の確定診断に用いられる頻度が最も高い。 (E) 褐色細胞腫やパラガングリオーマ、あるいは小児の下垂体低身長症の検査である。	2024/5/13
症例問題 内分泌 「Answer 58」 解説 2) p.140・本文右段・上から 7 行目	(D) 原発性アルドステロン症の確定診断に用いられる頻度が最も高い。 (E) 褐色細胞腫やパラガングリオーマ、あるいは小児の下垂体低身長症の検査である。	(D) 左右の副腎の責任病変を確定するには、最も有用である。 (E) 健常側への集積もあり、責任病変の確定には用いない。	2024/5/13

